

令和6年度第1回小笠原村ゼロカーボン推進地域会議
議事要旨

- 日時：令和6年7月2日（火）午後5時00分から6時40分まで
- 場所：小笠原村役場本庁舎会議室 A、小笠原村母島支所2階大会議室
（WEB会議システムによる父島・母島合同開催）

■ 議事

- （1）小笠原村ゼロカーボン推進地域会議について
資料1、参考資料1，2を用いて事務局より説明
- （2）ごみ処理の現状や資源化の取組みについて（報告事項）
資料1を用いて事務局より説明
- （3）意見交換：家庭や事業所において以下取組を進める方策について

- （1）どうすればごみを減らせるか

【家庭用生ごみの減量について】

- ・生ごみコンポストは、悪臭など近隣への苦情が発生しないよう配慮が必要である。
- ・生ごみについては、幼虫などの飼育による生物分解が有効である。
- ・生ごみコンポストや生物分解が、新たな外来種の持ち込みにならない配慮が必要である。
- ・環境課で実施している生ごみコンポストの試行やモニターの結果報告が楽しみである。

- （2）現行のごみ分別で分かりにくい・不便と感じるところ

【リサイクル率を高めるための方法について】

- ・容器包装プラスチックという区分が分かりにくいと、トレーだけ、ペットボトルのキャップだけ等に品目を限定して回収をすると、取り組み易いのではないかと。
- ・すべての分別に取り組むと大変なので、出来る範囲で取り組むのが良い。
- ・回収場所が増えると参加しやすい。特に高齢者は拠点回収場所に行くのが容易ではない。
- ・汚れていると資源化できないなど資源化ごみは品質重視であるため、ステーション回収はそぐわない。
- ・拠点回収拠点が役場のみでなく、一部の集合住宅や地域の施設などにもあると良い。

- （3）発展的なアイデア

【リサイクルへのインセンティブ付与について】

- ・実際の導入には議論が必要であるが、ごみ袋の有料化が最もごみ減量に効果があると導入済み自治体のデータで示されている。
- ・拠点回収については、エコポイントの進呈などメリットを付加できると良い。

【ごみや資源化に関する意識醸成について】

- ・ごみやリサイクルが汚い、大変というのではなく楽しいと認識されることが重要である。他自治体では、ごみ拾いゲームなど楽しみながら取り組んでいるところもあった。
- ・ごみ拾いが挨拶のように自然になるとよい。ランニングの際にごみ袋を持っていく人もいる。
- ・資料を見て、処理費用を減らすためにペットボトルよりは資源化の費用負担が少ない缶飲料に切り替えることも重要と感じた。
- ・資源化に係る費用を村民に公開すると良い。資料を見るとペットボトルや段ボールを使う取り寄せはなるべく控えようといった発想にも繋がるのではないかと。

以上